

2年次後期・必修

1単位・30時間

【概要・目的】

小児の最大の特徴は成長と発達である。小児の特性を考慮し、臓器別に小児に特徴的な急性疾患および慢性疾患についての病態と治療について解説する。栄養の基礎となる母乳、人工乳、離乳食の概念や予防接種、小児の事故、虐待など小児に関わる関連領域についてもできる限り言及する。

目的：小児の特性について習熟すること

【到達目標】

- 1) 小児科学および小児保健学の理解
 - 2) 成長・発達の理解
 - 3) 正常と病態の理解
-

【内容・スケジュール】

- 1) 小児の特性、成長、発達
 - 2) 小児の栄養 母乳と人工乳、離乳食
 - 3) 消化器
 - 4) 免疫・アレルギー
 - 5) 内分泌
 - 6) 血液・悪性腫瘍
 - 7) 神経・筋
 - 8) 循環器 先天性心疾患、後天性心疾患
 - 9) 新生児
 - 10) 代謝
 - 11) 感染症、ウイルス性疾患、細菌性疾患
 - 12) 膠原病・川崎病
 - 13) 呼吸器
 - 14) 精神疾患・心身症・その他
 - 15) 腎臓
-

【評価】

筆記試験(80%)、出席状況および参加態度など(20%)

【教科書】

必要に応じ資料プリント配布

【推薦参考図書】

- 小児看護学(Ⅰ) 小児看護学総論 小児臨床看護総論(医学書院)
- 小児看護学(Ⅱ) 小児臨床看護各論(医学書院)
- 子育て支援のための小児保健学(日本小児医事出版社)
- ナースとコメディカルのための小児科学(日本小児医事出版社)
-

【その他】